

未来は、わたしたちの想像以上だ。

「二十歳のつどい2026」

写真は、「二十歳のつどい2026」実行委員会の皆さん。会場を飾った「祝二十歳」の垂れ幕は、「直方谷尾美術館 第21期 子どもスタッフ」の皆さんが作成しました。



「二十歳のつどい」対象者の皆さんが
生まれた、2005年に起きたこと

【市内】

4月8日 イオンモール直方がオープン

【国内】

愛・地球博の開催

(EXPO2005AICHI、累計来場者数2205万人)

当時のヒット曲：さくら / ケツメイシ

参加者には、直方ふるさと応援大使で小学生切り絵クリエイターのKENさんがデザインしたトートバッグが記念品として贈られました。式典後には、実行委員会主催の抽選会も行われ、当選者には、成金饅頭等の景品を贈呈。会場は大いに盛り上がりました。

ロビーや会場前では、地元の仲間たちと再会し、記念撮影をする等、喜びを分かち合う参加者たちの姿が見られました。



副実行委員長 柳川輝稀さん



大塚市長

すべての人に感謝を

当日は雪予報だったにもかかわらず、輝かしい晴天に恵まれた1月11日。この日、ユメニティのおがたで「二十歳のつどい」が開催されました。寒さが感じられる冬の日ではありましたが、参加者は、晴れ渡った空の下で振袖やスーツに身を包み、暖かい笑顔とともに新たな一歩を踏み出しました。

式典では、大塚市長から「自身自身を信じ、ひたむきに努力してほしい。何事にも立ち向かう勇気を持ち、共に明るい直方市をつくりましょう」と、温かい応援の言葉が贈られました。

参加者を代表して副実行委員長 柳川輝稀さんが「家族や友人、先生方、多くの人に支えられて今の自分があります。これまでの経験を自分の生き様で見せ、恩返しができるよう成長を続けた。周りと比較することなく、自分らしく生きていきたいです」と誓いの言葉を述べました。